

でんぎの礎

一振り返れば未来が見える

めいじきのことにおけるでんきふきゅうのせんしんじせき

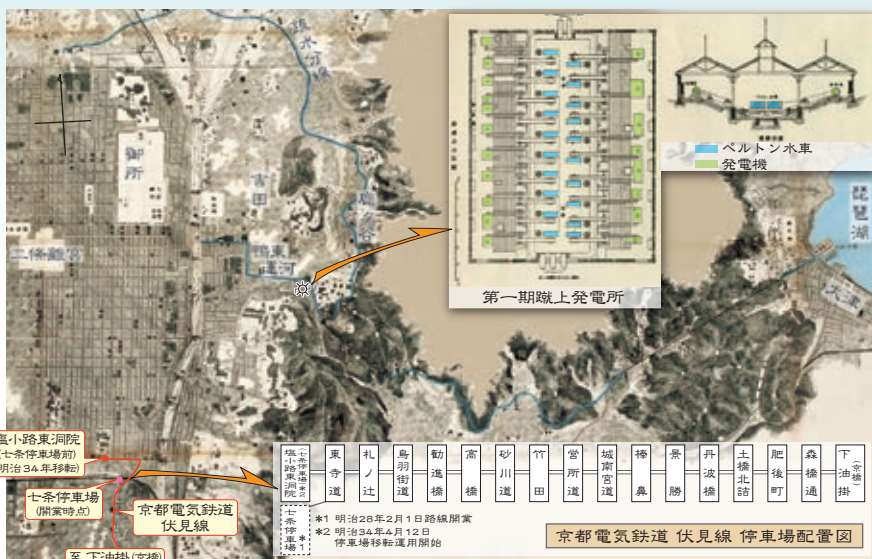
明治期の古都における電気普及の先進事蹟

～琵琶湖疏水による水力発電および電気鉄道に関する事業発祥の地～

場所

こと

The electric vestiges of first stage spread at Kyoto in Meiji period



(注1) 本図は京都市上下水道局所蔵の琵琶湖疏水地図(明治23年)の一部を加工して使用している。

(注2) 右上は第一期蹴上発電所 発電設備配置図(京都市上下水道局・田邊家資料)を元に加工した図である。

第一期蹴上発電所は、日本で最初の事業用水力発電所として琵琶湖疏水(1890(明治23)年竣工)とあわせて建設され、1891(明治24)年5月より運転を開始し、その後順次、発電設備が増強されました。現在、「水力発電事業発祥の地」の石標が関西電力(株)蹴上発電所構内に建立されているほか、ペルトン式水車・スタンレー式発電機が琵琶湖疏水記念館に展示されています。

日本で最初の電気鉄道の営業は、1895(明治28)年の京都電気鉄道株式会社による伏見線の開業であり、現在の京都駅前にあたる七条停車場(東洞院通り七条下ル 鉄道踏切南)と下油掛の間の約6.7kmの狭軌線路を、電気鉄道が直流電化方式で運行しました。同年に開業した伏見線および市内線の路線起点・終点の場所(京都駅近傍、伏見区下油掛町竹田街道沿い)には「電気鉄道事業発祥の地」の石碑と石標があり、京都市電も梅小路公園内や平安神宮内など市内各所に展示されています。

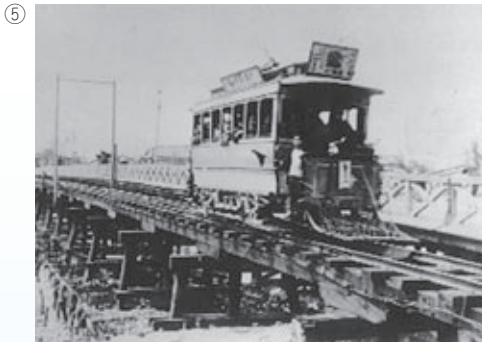
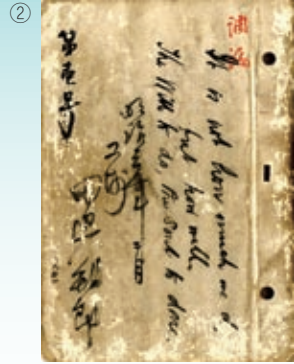
これら明治期の古都における事蹟は、水力発電事業及び電気鉄道事業の発祥地であるとともに、電気普及に向けた発電から鉄道にいたる当時の先進的かつ全体的な取り組みを示すものです。

☆顕彰先 : 京都市上下水道局、関西電力株式会社、京都市交通局

☆展示(一部)場所: 琵琶湖疏水記念館(ペルトン式水車、スタンレー式発電機)
〒606-8437 京都市左京区南禅寺草川町17

☆ホームページ: <http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000007524.html>

☆アクセス(最寄駅): 京都市営地下鉄東西線「蹴上」下車徒歩7分
京都市バス5系統「法勝寺町」下車徒歩4分



(写真提供：京都市上下水道局①②、関西電力株式会社③④、京都市交通局⑤⑥)

- ① 第一、第二疏水の合流点の現在の風景
- ② 田邊朔郎筆「琵琶湖疏水工事日誌」(明治20年2月)
- ③ 石碑「水力発電事業発祥之地」(京都市左京区粟田口鳥居町)
- ④ 第一期蹴上発電所内部
- ⑤ 京都電気鉄道株式会社鴨東線二条橋における明治30年の電車運行風景
- ⑥ 石碑「電気鉄道事業発祥之地」(京都市下京区塩小路通東洞院東入る東塩小路町)